

決算審査特別委員会総務分科会(続き)

『川崎まるごとWi-Fi化計画』*の進捗状況

市長が掲げた公約のうち、「市内1万か所の**アクセスポイントの整備**」、「ローミング料など通信事業者から**収益を上げる新しいモデル**」、「防災、交通、福祉など新しい生活関連の**新しいビジネス**が誕生する日本の成長モデル」について、進捗状況を調査し、市民にしっかり説明するよう求めました。

総務企画局から、「**アクセスポイント**は本年8月時点で市内1982か所を整備した。**収益を上げる新しいモデル**の構築は困難であると考えている。**新しいビジネス**が誕生する日本の成長モデルは、『かわさきアプリ(行政情報と民間の地域情報との相互連携などが出来る情報集積基盤)』を構築した。今後は民間と相互連携を図り実現に取り組む」と答弁しました。

*市民及び来訪者の利便性向上や安全・安心な暮らし、地域の活性化等につなげることを目的として、無料でインターネットに接続できる情報化の整備。

御幸公園にマンホールトイレ整備を!

御幸公園は、大規模災害などが発生した際、帰宅困難者を受け入れる広域避難場所に指定されています。避難者のトイレ対策として、マンホールトイレ(マンホールに直結するトイレ)の設置を求めました。危機管理室は「東日本大震災の教訓として、徒歩帰宅者により避難所のトイレ需要が増加する事を認識した。マンホールトイレはこれまで幹線道路沿いに15か所設置した。(御幸公園には)マンホールトイレの必要数も含め、関係局区と検討していく」と答弁しました。

被災者支援システムの有効活用を!

平成27年度に構築した「被災者支援システム(罹災証明等の発行状況や義援金などの給付状況などを一元的に管理できるシステム)」について、大規模災害時に速やかに効果を発揮するため、システムを運用する各区の職員への訓練・研修をすべきと対策を質しました。危機管理室は「事前に手順を確認し、慣れておくことで効率的に対応できるので、年度内の支援システム操作研修の実施に向けて、関係部局と調整する。次年度以降は毎年6月頃に行う」と答弁しました。

避難所運営マニュアルの全所配備、 避難所開設訓練の全市実施・配備場所の 明確化を!

かわの忠正議員が、洪水・土砂災害用避難所運営マニュアルの作成状況と、それを活用した避難所開設訓練状況を調査したところ、作成は約73%、避難所訓練の実施は毎年3割台という状況でした。市として未実施の地域を掌握し、実施を働きかける事やマニュアルの保管場所や運用の取組みを質しました。

危機管理室は「避難所開設に関する事項の確認や、未実施の地域へ実施できるよう支援をしていく」と答弁しました。

選挙開票作業の改善

昨今、「開票作業時間が遅い」「有効票と分類された票の中に本来無効とすべき票があり再点検に時間を要した」ことなどが発生しています。

開票作業の正確性、迅速性は民主主義を支える基盤となることから、改善計画の策定、徹底した階層別研修の実施などを訴えました。

選挙管理委員会は「職員の階層別研修の実施を検討。今年度内に改善計画を策定する」と答弁しました。

かわの忠正議員の 身近な実績フォト



見えづらい交通標識を改善

「進入禁止」標識が運転手から見えにくい向きのため、進入する車が多い交差点の標識を、幸警察署に依頼し改善しました。(幸町4-39付近)

『市民相談室』随時開設中♪
まずは、お電話下さい。

☎044-511-0687

市政懇談会もご希望に応じ随時開催!
公明党川崎市議団 **かわの忠正事務所**

ホームページ



facebook

